

LIFE TIMES



平成29年3月1日(水)発行 【隔月(年6回)発行】

発行部署 : ソリューション営業第2本部ソリューション営業部
住所 : 東京都港区芝大門一丁目1番30号
電話番号 : 03-5408-4600
発行責任者 : 古田 泰幸
お問合せ窓口 : 石山 義裕

第128号

【目次】

1. 「菱徳丸」進水式
(石炭ボイラー発電事業における海陸一貫物流体制について)
2. 国交省開催のトラック輸送に関する会議傍聴報告
3. BCMS(事業継続マネジメントシステム)訓練開催について
4. 女性リーダー養成研修 開催
5. 場所紹介 ～五井営業所(千葉県市原市)～
6. 当社社名変更に関するお知らせ
7. ウェアラブルEXPO 参加レポート



1. 「菱徳丸」進水式

(石炭ボイラー発電事業における海陸一貫物流体制について)

当社は、1月18日に愛媛県今治市において、爽やかな晴天の下、新たに石炭専用船として建造している「菱徳丸」の進水式を、荷主様をはじめ、建造に携わった多くの方々にご出席いただき執り行いました。

「菱徳丸」は、三菱化学社水島事業所内に設置された石炭ボイラー発電設備の主燃料となる石炭を瀬戸内海のコールセンターから2,200トン積載し、年間33万トンを輸送する専用船として建造しております。

建造にあたって船型は、入港する呼松港の狭い水路、浅い水深の厳しい条件の中で最大限の積載量を確保できる特殊船型とし、プロペラには、省エネ効果や船員の負担軽減となる振動抑制が期待できるカーボンファイバー製プロペラを初めて採用しました。このカーボンファイバー製プロペラの原料は、三菱レイヨン社製の炭素強化プラスチック繊維を使用しており、三菱ケミカルホールディングスグループ各社のシナジー効果を発揮しております。

菱徳丸の着岸後は、陸上側に常設されているアンローダー※で陸揚げし、ベルトコンベアーを経由して石炭サイロに一旦貯蔵した後、専用のセミレダンプで事業所内の石炭ボイラーまで運搬します。当社は、今回、この石炭運搬車両を新設しました。更に石炭を燃やした後の燃え殻(石炭灰)についても、専用の車両を新設して処分場まで運搬します。

このように船舶輸送、港湾荷役、陸上輸送といった海陸一貫体制で本年4月よりスタート致します。

尚、三菱化学社の石炭ボイラー発電事業は、本年4月より試運転を開始し、7月より営業運転の予定となっております。



【進水式】

※ アンローダー 埠頭に設置して石炭などのばら物を船から揚げる荷役機械

2. 国交省開催のトラック輸送に関する会議傍聴報告

2月1日に国土交通省にて「第5回トラック輸送における取引環境・労働時間改善中央協議会及び第4回トラック運送業の生産性向上協議会」が開催され、傍聴して参りました。

この会議では、トラック運送事業における長時間労働の抑制や適正料金への改善に向けた取組みなどについて、下記議題に沿って議論が交わされました。

- 議題
- (1) 地方協議会におけるパイロット事業の進捗等について
 - (2) 運賃・料金について
 - (3) 貨物自動車運送事業における生産性向上について
 - (4) 下請等中小企業の取引条件改善に関する関係府省等連絡会議関係の取組みについて
 - (5) その他

傍聴した中で、「地方協議会におけるパイロット事業の進捗等」についてが特に興味深かったため、ご紹介します。パイロット事業では、トラック乗務員の長時間労働等の改善を目的とし、47都道府県においてトラック輸送における実態調査をしています。この調査結果をもとに荷主と運送事業者が連携し、現状分析をして課題解決に取り組んでいます。例えば、ある納入先では受付開始時にトラックが集中し、順番待ちになるという課題があったのですが、受付予約システムを活用することで待ち時間短縮を図るといった課題解決の取組みが予定されているそうです。

このパイロット事業によって長時間労働が抑制され、トラック乗務員が働きやすい環境となり、更にはイメージ向上によりトラック乗務員全体の雇用確保に繋がり安定した運用ができることを期待します。



3. BCMS(事業継続マネジメントシステム)訓練開催について

1月31日～2月1日の2日間、国交省にて災害支援物資を海上輸送する実働訓練がおこなわれました。南海トラフ地震で甚大な被害が発生した際に、大量の災害支援物資輸送が必要になると想定されたもので、トラックや船舶を用いて以下の2ルートを実際に輸送する規模の大きなものでした。



震災に関する訓練という面では、当社も1月27日にBCMS訓練をおこないました。

首都圏直下型大地震発生(震度6強、M7.3)が発生したとの想定の下、本社社員の保身行動、安否確認、代替本社機能の設置などの訓練でした。

訓練をおこなう目的の一つに、いざという時の行動がスムーズに普段通りに実行できるようにすることがあげられますが、訓練で発生した課題に対しての改善も大切であり、自分たちの知識・技術の向上を図ることも重要と考えます。

物流会社は、自社の事業継続は言うまでもなく、社会基盤を支える大事な役割を担っており、震災など自然災害発生後の支援物資輸送、サプライチェーン維持の為、通常と異なる業務体制での社会貢献が求められています。

4. 女性リーダー養成研修 開催

当社では、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)」に基づいた行動計画の取組みの一環として、各職場でリーダーとして活躍する女性社員を増やすべく、2月8日～10日までの3日間、総合職の女性を対象に『女性リーダー養成研修』を実施しました。

本研修は、マネジメントの理解・セルフマネジメントの意識醸成・リーダーシップ発揮のための行動やスキルの習得を支援することをベースに、各種講義の受講、個人ワーク、グループワークを交え、個々人のキャリアを振り返りながら、自身がリーダーとなることで、組織と自分にとってどのような価値があるのか、どのような影響があるのかを考える内容でした。

そして自分の特徴・傾向の把握や、これまでのキャリア・経験の棚卸しを踏まえ、自分らしさを活かしたリーダーシップのスタイルを確認し、研修の中で自信の強みをそれぞれに発表しましたが、同じ強みを持つ女性は誰一人としていませんでした。人は育ってきた環境、経験、価値観が違うからこそ、その人にしか発揮できない、周りへの影響力を必ず持っています。「リーダー像はひとつではなく、自分らしい力の発揮の仕方」について学べたのではないかと思います。

総合職の女性だけが集まる研修は今回が初めてでしたが、はじめは緊張した面持ちだった参加者も、次第に積極的に意見を述べる場面も多くみられ、活発なグループディスカッションや演習を行っていました。短時間でのワークが多かったにもかかわらず、真面目に主体的に取り組んでおり、受講者からは「また明日から頑張れる」という声もあり、短いながらも非常に充実した3日間になったようです。



ワークショップの様子

5. 場所紹介 ～五井営業所(千葉県市原市)～

当社東日本エリア営業部五井営業所は、千葉県市原市の臨海工業地帯に位置し、所長以下9名と協力会社4名(倉庫作業員)の計13名で自営倉庫の入出庫保管・外部倉庫の管理・輸送・引越業務を行っています。

本誌第125号でスルー輸送の中継拠点として神奈川SPをご紹介しましたが、当営業所は、主に千葉県内を配送エリアとした拠点として、昨年7月よりデポ機能を備えた形で運営を開始しました。現在は、関西・中国方面からの荷物を1日大型トラック2台ほどで受入していますが、新規荷物を増やすため営業部門と連携して営業活動をしています。

当営業所のある市原市には、ジェフユナイテッド市原・千葉のホームスタジアムやゴルフ場があります。ゴルフ場数日本一の自治体と言われていることもあり当営業所周辺には、たくさんのゴルフ場があります。一度行かれてみてはいかがでしょうか。

また、千葉県内向けの小口荷物で困っていたら、是非お声掛け下さい！



JEF UNITED
ICHIHARA CHIBA

市原市は千葉県のマスコットキャラクター「チーバくん」で言うところの喉の下から胸元あたりです



五井営業所
(五井デポ)



当営業所の外観



早朝 幹線便受入



配送車両へ積替

※配送エリア(千葉県全域・茨城県一部)

6. 当社社名変更に関するお知らせ

三菱ケミカルホールディングスグループは、本年4月1日に傘下の三菱化学株式会社、三菱樹脂株式会社、三菱レイヨン株式会社の化学系事業会社3社を統合し、三菱ケミカル株式会社を発足させます。経営環境変化への迅速な対応と事業の成長を図るため、3社が持つ経営資源を最大限活用できる体制の構築を目的とした統合ですが、これにあわせ当社も同日付で三菱ケミカル物流株式会社へ社名変更を行います。(英文社名は変更ありません)

新たなスタートを機に、社員一同、KAITEKI物流の実現に向け気持ちも新たに日々取り組んで行きたいと思いますので、引き続きよろしくお願い致します。

7. ウェアラブルEXPO 参加レポート

1月18日～20日までの3日間、東京ビックサイトで開催された「第3回 ウェアラブルEXPO」に参加して参りました。最新のウェアラブル端末から、IoT、AR／VR※ 技術、最新ウェアラブルデバイス開発のための部品・材料まで、ウェアラブルに関する全てが出展された総合展であり、参加した最終日は大盛況でした。

展示会では、スマートグラスをはじめ、時計型や衣料型のデバイス等、様々なタイプのものがあり、また、活用分野やシーンでは、製造や物流、保守点検、医療等があり、広く紹介されていました。私たちの業務に関連するところでは、作業時間短縮やミスの軽減、安全性の向上を目的とするものがありました。その中で印象に残っているものは、人の動線や滞在時間等を計測できるもの、リアルタイムで人の位置を把握できるものです。これらは、当部で行っている実態調査で活用できる可能性があると思いました。

引き続き最新技術の情報収集を行うとともに、私たちの業務において人と時間をかけて行っているような作業は、より効率よく作業ができるようなツール導入の検討を行い、お客様へのご提案内容の質の向上や検討のスピードアップに繋げていきたいと思えます。

※ IoT:Internet of Things(モノのインターネット)
AR:Augmented Reality(拡張現実)
VR:Virtual Reality(仮想現実)



編集後記

ソリューション営業部 岸村

日に日に暖かくなり、風のかおりで春の訪れを感じるこの時期、桜の開花が楽しみです。112号、122号で紹介いたしました当社新業務系システム「AJIOS」が、2月より本格稼働となりました。システムを活用し、4月からの新体制では、みなさまへよりよい物流の効率化をご提案できるよう望む所存でございます。

さて、春といえば、健康診断。以前は体重の増加、ここ数年は中性脂肪、コレステロールの値が気になります。1月30日から東京都心部(23区と武蔵野市、三鷹市)のタクシー初乗りが平均410円と近距離でも利用し易くなりましたが、乗りたい気持ちをこらえ、体内血中内の脂を少しでも消費すべく万歩計片手に歩く毎日です。今年こそは健康支援センターに呼び出されませんように。